令和２年度　学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立　藤戸台小学校
作成日	令和3年　3月　12日

1　教育目標

自分の成長を感じる子供の育成

2　学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・全国学テ、県学習到達度調査で正答数がそれぞれ全国や県平均を上回る。 ・分かる授業、子供主体の授業の実践(児童・教師90%)	・学校が楽しいと感じる(児童90%) ・いじめ解消率100%	・早寝・朝起き・朝ごはんの実行(90%) ・積極的な運動の計画・実践(90%)	・学校の様子が伝わった(80%) ・ゲストティーチャー、読み聞かせボランティア等の人材活用(教師80%)
重点目標に対する意見	・コロナ禍においても主体的・対話的な学びを重視した学習は大切であると考える。 ・基礎基本の定着のための学びタイムやフォローアップの時間の設定は保護者としては有り難い。 ・家庭学習は保護者との連携が大切である。	・道徳の授業では、児童の生活につながる授業づくりが大切である。 ・いじめのない学級・学校を作るという目標を持って取り組んでいただきたい。 ・児童に読書の楽しさを味わわせる環境作りに取り組んでいただきたい。	・知・徳・体のバランスが大切であり、コロナ禍においても体力づくり・健康づくりにも十分取り組んでいただきたい。 ・基本的な生活習慣の定着のため、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズム作りは大切な目標である。 ・危険回避について児童の意識を高めるためには、定期的な避難訓練や緊急時下校訓練の実施は大事である。	・児童の活動の様子や学校行事の様子等を家庭や地域に情報提供することは大切である。 ・和歌山大学教育学部連携校として交流を実施していることは、児童にとっても良い環境であると思う。 ・地域の人材を活用した教育実践は重要である。
取組状況に対する意見	・各学級で児童が共に学び合い、話し合いを大切にした授業を意図的に実践されていることが分かった。 ・家庭学習については、児童が自主的に学ぶ習慣の定着のため、学校と家庭の連携を深める必要がある。	・道徳の授業においても対話的な学びを重視し、児童が生活の中で実践できるよう指導することが大切である。 ・教員が児童と一緒に清掃活動等に取り組んでいることは良いことである。 ・図書ボランティアの募集に賛成する。	・スポーツテストは児童の実態の把握と課題克服について取り組むために重要である。 ・基本的な生活習慣の定着については、家庭との連携が大切である。 ・コロナ禍においても不審者対応避難訓練、休憩時間中の避難訓練等いろいろな場合を想定した避難訓練を実施していることは評価できる。 ・持久走大会の持ち方について研究してほしい。	・学校の様子を伝達する方策として、お便りやホームページでの情報発信等はよい取組である。より多くの保護者がホームページを閲覧できるようにホームページの存在に係る広報に努めていただきたい。 ・コロナ禍において和歌山大学との連携については困難であったかと思うが、今後充実したものとなるようにしていただきたい。 ・コロナ禍においても地域の方々が教育活動に参加することは重要であり、「地域とともにある学校」ということにつながるものと考える。来年度は、その方策を考え、地域や保護者との連携をさらに深められたい。
取組の適切さの検証結果に対する意見	・コロナ禍においても各学級で児童が共に学び合い、話し合いを大切にした授業を意図的に実践されていることが分かった。 ・家庭学習については、児童が自主的に学ぶ習慣の定着のため、学校と家庭の連携を深める必要がある。 ・児童に分かりやすい授業を提供するため、コロナ禍においても研究授業や公開授業、協議会、教科部会等いろいろな取組をしていることが分かった。 ・コロナ禍においても教科部会や研究授業において有識者から指導助言を得ながら授業改善に取り組んでいることが分かった。 ・「希望のしるしノート」の取組については、保護者の理解を深めるための今後も説明が必要である。	・道徳の授業では、実践力の向上についての共通理解を大切にしていただきたい。 ・いじめアンケートを定期的に行い、いじめの早期発見・早期解決に取り組んでいることは評価できるが、今後もいじめにより悲しい思いをする児童を生まない取組を最重要取組として継続していただきたい。	・これまでのスポーツテストへの高学年と低学年の交流による実施はよい取組である。今後も続けていただきたい。 ・これまでの全国学習調査・県学力調査において、学習面においても、基本的な生活習慣の項目においても良好な結果が出ている。今後も学力・生活力の向上に努めていただきたい。 ・９００名を超える児童の避難については、繰り返し訓練を行い、検証していく必要がある。	・お便りやホームページでの情報発信等はよい取組であるが、計画的に更新されることを期待する。 ・大学との連携を深め、要請を積極的に受け入れることは児童にとってもプラスになる。 ・コロナ禍においても感染症対策を図り、お手玉の会や昔遊び、社会科授業への参加、花植えボランティア等地域の方々との交流については方策を立て実施していただきたい。
次年度に向けての改善方法に対する意見	・児童が自主的に学習に取り組む習慣をつけるため、家庭との連携・協力体制を築かなければならない。 ・各教員が、研究テーマを持って、授業力向上に取り組んでいただきたい。	・道徳の評価をどうしていくか学校として共通理解が必要である。 ・いじめアンケートは今後も定期的に行っていただきたい。また、回数やいじめの把握の方法等についての改善も検討していただきたい。 ・図書館ボランティアの募集はぜひ行っていただきたい。	・コロナ禍においても感染症対策を図り、スポーツテストの結果を反映した体育の授業の実践に努めていただきたい。 ・早寝・早起き・朝ごはん・挨拶については、学校と保護者の連携のもと取り組んでいきたい。 ・今後も火災・地震・津波・不審者対応等の避難訓練や集団下校訓練を実施していただきたい。	・ホームページ以外の情報発信について考えるにあたり、昨年度実施した地域交流会なども活用していただければと考える。また、より多くの保護者がホームページを閲覧できるようにホームページの存在に係る広報に努めていただきたい。 ・大学との連携については小学校側の負担にならないようにしていただければと考える。 ・地域や保護者への協力については積極的に呼び掛けていただければと考える。

3　その他のご意見

新しい地域の中の学校として発展するよう、学校・家庭・地域の連携を深め、より良い学校づくりに取り組んでいただきたい。今年度はコロナ禍において様々な制限があり、これまでの活動の実施が困難であったと思うが、学校と保護者のつながりた保護者同士のつながりが希薄になっていたと感じる。来年度は、コロナ感染症対策を図りながら、行事等を実施するための方策を考え、活動を実施するような学校経営をお願いしたい。